

(心理学に関連する領域)

【No. 1】 我々の行動や心理的健康にとって重要な概念として指摘されているコントロール感について、以下の問いに答えなさい。

- (1) ロッター (Rotter, J.B., 1966) のローカス・オブ・コントロール (locus of control) と、バンデューラ (Bandura, A., 1977) の自己効力感 (self-efficacy) について説明した上で、両者のコントロールという概念に対する捉え方の違いについて記述しなさい。

- (2) セリグマン (Seligman, M.E.P., 1975) は、イヌやラットを被験体とした実験結果に基づいて学習性無力感 (learned helplessness) という概念を提唱した。その後、アブラムソンら (Abramson, L.Y., Seligman, M.E.P., & Teasdale, J.D., 1978) は、人の場合に学習性無力感を原因帰属と関連させて捉えることの有用性を指摘し、改訂版学習性無力感理論を提唱した。両者について、その差異がわかるように説明しなさい。

- (3) 勉強をしても学業成績がなかなか上がらず、学業へのやる気や自信を喪失している中学生に対して、どのように対応することが有効と考えられるか。(1)及び(2)を踏まえて具体的に論じなさい。

(教育学に関連する領域)

【No. 】 持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育である。これに関して、以下の問いに答えなさい。

(1) 学校教育の中で、持続可能な開発のための教育がどのように実践されているかについて、現行の学習指導要領の内容と関連させながら説明しなさい。

必要ならば、下記の語句を参考にしてもよい。

環境学習，エネルギー学習，国際理解学習，防災学習， 世界遺産や地域の文化財等に関する学習，生物多様性，気候変動
--

(2) 持続可能な社会づくりの担い手を育むために、我が国が優先的に取り組むべき課題と、その課題に対する具体的な教育施策について論じなさい。

(教育学, 福祉及び社会学に関連する領域)

【No. 1】 以下の問いに答えなさい。

(1) 教育学, 福祉又は社会学の観点から, 近年の我が国における「ひきこもり」について, 現状, 背景, 既に取り組まれていることなどを説明するとともに, 今後どのような行政的・政策的対応が考えられるか論じなさい。

なお, ここでの「ひきこもり」は, 義務教育就学中の者を含むものとする。

(2) 以下の問い **A**, **B**, **C**のうち, いずれか一つのみに解答しなさい。

なお, 解答に当たっては, 選択した問いを, 解答の冒頭に **A** のように記すこと。

A. 学習指導要領の「法的拘束力」及び「基準性」について, 法的根拠を踏まえて説明しなさい。

B. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)が成立した背景及び同法の内容について説明しなさい。

C. U.ベックが論じた「リスク社会」について説明しなさい。

(福祉に関連する領域)

【No. 〇】 現在の我が国における就労と福祉に関して、以下の問いに答えなさい。

- (1) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向けて行われている施策や取組について一つ以上挙げ、現状に触れながら、その課題を社会福祉の観点から論じなさい。

- (2) 障害者、高齢者、生活困窮者、ひとり親などに対する「就労支援」や「福祉的就労」の取組や実践が行われているが、こうした取組や実践に関し、具体例を挙げながら、その課題を社会福祉の観点から論じなさい。

(社会学に関連する領域)

【No. 1】 「公共」に関して以下の問いに答えなさい。

(1) 以下の三つの語句を全て用い、社会学的な観点から「公共」の概念について簡潔に説明しなさい。

市民社会、市場の失敗、フリーライダー

(2) (1)を踏まえ、我が国における、「公共」の現状について、具体例を踏まえつつ社会学的な観点から論じなさい。